つたもの（國民の不利益に非ずして其の各自の一二に止まる所の營業の不利益を被つたもの、隨つて官僚政治を誹謗するもの）此れ等が皆官僚政治の弊害のみを擧げるものになるのである。故に、其の官僚政治の非難は、官僚政治其のものが全く完全なものではないけれども、其の缺點以上に誇大の非難を加へて其の反對すべき議論を敷衍し意見の粉飾を試みんとするに外ならぬと云ふ弊がある。而して、此の非難が官僚政治の偶發的弊害を指摘するものに非ずして、其の本體に於て非難すべきものであるとするならば此のことは、其の非難を試みるの其れ自身に於て、皆多少は有してゐるのである。又非難を贊成するもの丶中にも、矢張り同樣に其の缺點を有して居るのである。前にも述べたやうに小銀行家が大銀行家に對して、官僚的の杓子定規を非難し、小事業家が大事業家に對して、同一の非難罵倒を試み、小商人又は小會社が大會社に對して、同

一の手段を執るもの、一人にして足らないのである。要するに、官僚政治其のものは、社會の進歩に隨ひ益々複雜となり、隨つて其の活動の敏捷正確ならんことを希望するに當つては、一個の組織的機關によらざるを得ない。乃ち一人の首領の指揮監督の下に相當の幹部機關を置き、其の多數を指揮して目的を誤らないやうにする所の組織的機關に外ならないのである。言換へれば、此の組織的機關即ち一種の機械として、文明的の事務を處理するに官僚政治なかるべからざるものであつて、極度の自由を主張する所の社會民主黨の黨務に於ても此の事實は免れないのである。故に自由主義と官僚主義の手を全く離れて至便至當の活動をなし得ること能はずと云ふも不可なき次第である。

更に他の言葉を以つて官僚政治を說明して見れば、官僚政治主義なる者は、分業的執務主義であつて、既に司法、行政と國家の事務が截然分たれて居る以

上は、如何なる國に於ても、文明の政治としては免かるべからざる專門分科がある。此の專門分科の各々に專らにする所の機械的作用を、敏活に過失なく進行せしむるに於て、官僚政治なるものは其の方法であり原則であるのである。世に、官僚政治は官吏を增加するものなりと主張し、文明の民主政治は此れに反して官吏を減少するものなりと主張する人尠からざるに拘はらず既に司法、行政の分轄によつて、官吏は減少するどころか却つて增加するは明かなる事柄である。此の事實は、必ずしも官僚政治のために然るものではなくして、專門分業のために官吏が增加するものであると云ふことは、今更ら言を俟たない次第である。此れと同じく、其の事務に通せざるために官吏の增加するを以て、唯だ官僚政治の弊なり官僚主義の罪なりと一途に此れに其の責を歸せしめんとするのは、思はざるの甚だしいものではないか、官僚政治の弊よりして官吏の

增加する事が實際にあらざるは固より言はず、官僚政治そのものゝ本體が官吏を增加せしむるの虞れあり過失ありと看做すが如きは抑々大なる間違ひであつて、此の如き現象は官僚政治の過失に非ずして、唯だそれは未熟官僚政治に偶發したる一時の現象に過ぎないのである。又官僚政治の中央集權地方分權と云ふことに對する關係よりして、此れに非難を試みるものもあるが、元來此の地方極限に權限を分與し地方機關の權力を擴張せんとすることゝ、中央集權することゝの問題は、全く別種の問題であつて、官僚政治のために云々いふものではない。此れは使官上の問題である。

以上の外、官僚政治の根本問題は、官吏そのものゝ品性能力如何とゞふことに歸するのであつて、此れより非難も生じ非難も免かれ、又賞讃し聲も起るべきものであると考へる。如何なる主義によつて組織するも、一箇の事務所を

組織する以上には、多數の吏員其の人を要することは明かである。即ち此れ官衙にあつては官吏、會社にあつては重役若くは社員である。此の一方の官吏と他方の社員と其の人の品性能力を對照比較すれば、果して官僚政治主義に於て弱點が多いかヨリ大なる弱點が有るかは、頗る疑問に屬すべき事である。今或大學者しくは大政黨大企業の或成績を以て、能く其組織並びに其の吏員の行動に對照して見るときには、必ずしも官僚政治的なる組織の如何によつて、其の功績の如何を卜するに足らないと云ふことは、甚だ明らかな事である。我が日本に於ては各會社各銀行新聞社等に於て其の重要位置に官吏の古手を聘用するに徵しても明かで、殊に一大政黨の首領や領袖にすら官吏の古手が珍重せられ奉戴せられて居るではないか。又社會民主黨の如きに至つても、其の吏員のためには學校を設け、或は經驗家に對して特別の講義を授け、新に採用するもの

には試驗法のあることに於ても、官僚政治主義の必要は又明かである。加之國有鐵道が如何に幹部吏員の少數を以つて大機關を動かし、他の數多の獨立したる私設會社の鐵道重役が獲得したる所の俸給額並びに賞與額に比すれば、ヨリ少ない金額を以つて、各自の奮勵努力によつて功績を擧げつゝあるかは數字の明瞭に示す所である。此れは獨り日本の各團體のみならず、他の外國の各團體に於ても同樣の事實があることは明かな所である。其の他苟も此の如き官僚政治の行はれざる團體に於ては、組織的活動の原則を維持すること能はざるは誠に明瞭である。官僚政治と政黨との關係に付きて言はば世間既に政黨には官僚政治あるべからずと信ずるもの多きが抑の誤解である。英國の如きも近來の狀態で見れば大陸手本の官僚政治を免かるゝこと出來ぬことを悟り居るものゝ如く思はれる。多年英人は英國に是等官僚政治の侵入すべき餘地がなく全

く其影響を蒙らなかつたと誇稱して居つたことが陳腐であつたことを悟りつゝあるのではないかと疑ふべき點が多いのである。抑も英國政黨內閣に官僚政治がないと思ふものは英國の事情に精通せざるの致す所に非ざるかと疑ふ。即ち官僚政治が政黨內の基礎を爲して居ることを自分も知らず、世間も知らぬに起るのである。元來英國では二大政黨が久しく睨み合つて各其黨務を支配するには「バイッエル」即ち「ウキップ」(鞭を執つて指揮する者)があつて一定の機關を率ゐて其黨派の官僚政治を行つてゐる。恰も此「ウキップ」は軍事の參謀本部の如きものである。我國で屢々英國に於ける自由政治又は政黨政治を口にするものは此の事實を知らぬためではないか。殊に我國では英國の政黨政治即完全な領袖制度は未熟の時代に屬し、從つて吾が政黨は今尙ほ未熟官僚政治である。而も稍組織の整ひ居る政友會でも、實際未熟官僚政黨たるを免れぬ。彼の

板垣伯、大隈侯の自由黨改進黨時代よりは進歩して居ることは何人も異議のないところであるが、斯の如く未熟官僚政治たることは免れ難きに拘はらず、其黨員は官僚政治以外に超然たる如く考へて得意の態度あるは甚しき誤謬ではあるまいか。

(五) 官僚政治の本體

之を要するに、官僚的の執務方法が杓子定規にして煩雜に堪へずと唱ふる所のものは、多くは未だ大經營の內部執務の技術の觀念を有せざる人士が、好んで異說を唱へ好んで非難を加へるに過ぎないと思ふのである。故に官僚政治其のものに固より瑕瑾なきを保し難きと同時に、今日此れを改善すべきもの多く有ることは認めるけれども、此れを以て全く官衙の執務方法なりとし、又之を

全く除却して、社會的活動の複雜なるものを處理せんとすることは、大本に於て誤れるものなりと謂はざるを得ないと思ふ。是に於て、近世的大團體の成立したる處のもの、即ち官衙と云はず、銀行と云はず、又會社と云はず、個人商店と云はず、總ての此の如きもの、成立の骨髓は、實に官僚政治主義にありと云ふことを我輩は斷言するのである。併しながら此れに對して不斷改良の必要があることは固より論を俟たない。何となれば、如何なる改良なりとも、弊害は自然に生じ易きものであつて、隨つて改善すれば隨つて弊害を生ずることは萬事に免れ難いものである。故に、常に此れ等の弊を除去することに留意し時々之を指摘して其の改善を促すことは、健全なる官僚政治の發達を希望する上に於て、極めて必要のことであると我輩は信ずるのである。要するに、官僚政治の機關を不必要なりと唱ふるものは、抑も誤つて居るので、又此れが改善

の不必要を唱ふるものも誤つて居るのである。社會の進歩し複雜となるに隨つて、益々官僚政治の缺くべからざること又其の改善の必要なることは、毫も疑ふの餘地はないのである。

今や、官僚政治主義を非議することは極めて容易のことであるけれども、其の官僚政治の行はるべき團體組織の內部の事情に通じて、能く具體的に此れが改善の方法を指摘する人は、古今內外共に甚だ尠い。更に其の能力あつて之を實行するの人々に至つては、一層其寥々なるを慨まざるを得ない。偶々官僚政治に多少經驗あり、又重要の地位を占めたるものであつて、之を論ずるものも攻擊するものも有りと雖も、多くは其の落伍者にして濫りに不平を鳴らし、未だ曾て大經營をなす團體の內部の事情を知らず、又其の技術の觀念を有せざる無謀の非難者に伍して、一時の喝采を貪らんとするものである。獨逸のクルツ

プ製鋼所の如きは、クルップ其の人は官吏に非ずと雖も、其の工場の整理擴張等に對しては、總て此の官僚政治的の規定を襲用せざるを得ざることであつて、之を外にしては、クルップ家の繁榮策を企畫すること能はざるは、甚だ明らかでないことである。隨つてクルップ家の工場に於ても商店に於ても、亦同一の例を有して居ることは疑ひないことである。

終りに臨んで、一二組織機關の生涯に於て官と云はず、民と云はず、團體と云はず、個人と云はず、總ての生活に於て複雜なる大事業を統治するに必要なる一大機械は、官僚政治なることを證せんがために、左に一二大家の所說にして、我輩と所見を一にするものを擧げて置く。ハイデルベルヒ大學の敎授アルフレッド、ウイーベルの社會政策學協會の演說中に明言する處の一部を此に引證しやう。

我輩は官僚政治的機械の技術上の長所は、否認するほどの愚蒙なるものに非ざるなり。吾人は、官僚政治的機械が大なる機械に於て技術上必要なるものにして又最も光輝あるものなることを、漸次知り學びたるものなり。吾人は、シユモーレル氏が、官僚政治なるものは、大なる機關に於て分業の法則を貫徹し以て官吏をして專門的ならしめ、且つ本職的官吏を養生せんとしたるものなりといへる意見は、之を排斥するものに非ず。吾人は、官僚政治が良好なる司法行政、及び概して事實上良好なる內務行政を創造したるが如く、他の幾多の機能を擔任することを得ず。交通政治生產政治の變化は官僚政治的機械を排斥すべき部分は、恐らく最も小且つ狹隘のものなることを經驗に依つて確信するものなり。其の外公的官僚政治に止まらず、總ての組織的團體は、假令公的のものに非ずと雖も、官僚政治的なること、及び總て大なる組織體は、此の技術的

機械を帶得するものなることを知れり。最後に吾人は、將來益々大組織の設立否公的若しくは私的の大機關が、一層大なる機關に合同することを以て、進化の行極上必要なることを知れり、云々。

吾輩は又古き自由主義者にして其の當を得ば一切之等の問題を度外視して放任せざることを否定せざるべし。然れども、彼等の古き自由主義は、甚だ當を得たるの見解を有せざるものなり、云々。（中略）若し此の如き形勢を詳にしたるときは、勿論舊來の放任主義を再び採用することあらざるべし。

又伯林大學の教授ドクトル、アドフル。ワグネルが同時に演說せる中に、アルフレッ、マウエーベル教授が吾人は此れに依つて再び一大官僚政治的機械を創立するに至るべしと說くに對して、余輩は然りと答へ、且つ其の他に如何なる方法あるかを問はんと欲す。此れ官僚政治的機械によつて實行するか、又は

全く之に着手せざるかの二途あるのみ、云々。余輩は斷然且つ正直に普國及び墺國に就いて斷言せんと欲す。普國及び墺國をして今日あらしめたるは、ホーヘンツオルレーン家及びハープスブルグの兩家に非ずして、兩家が堪能なる官僚政治を施行したるにあり。兩家が官僚政治家を養成するによつて成功したなり。墺國は疑ひもなく有爲なる人物の製造の下に、財政經濟上の非常なる難局を排して、能く成功を遂げたり。即ち之に關する幾多の政治家を列擧するには、悉く官僚政治家に非ざるはなし。普國に於ても亦同樣なり。ビスマルク自身は、確に或る關係に於て官僚政治家に非ず。然れども彼は近世的大官僚の一員たりしなり。又近世の獨逸帝國及び墺國の如き或る國家を產出したる官僚の一員たりしなり。偶然的性質の缺陷及び人間の不完全の何處にも存することは、到底見るべからず。我が官僚政治にも、確に幾多の非難すべき點はあれ

ども、吾人は此れが救濟手段及び相互の監督法を十分に有せり。吾人は、此の官僚政治的機械を必要とし、且つ獨逸及び墺國に於て、官僚政治が內務行政、經濟行政及び新奇なる大工業的行政に於て、成功したることは、世界に唯一のものなることを斷言し得べし。彼の純然たる私經濟國たる米國に於ては全く別種の弊害を見るべし。即ち腐敗之れなり。獨逸に於ては、大學の教授が自由なる放言を爲すために、聊か譴責せらるゝことあるも、若し米國に行き屢々賞讃せられたる寄附金を以て成立せらるゝ大學に於てツラストに反對せば、直ちに放逐せらるゝこと疑ひなし、云々。

右の如く、獨逸國に於ても、官僚政治の問題は、各種の點より講究せられ、屢々各般の政治經濟的合同に於て對論せらるゝ機運に遭遇しつゝあることは、世人の既に知る所であるが、ウキアナに於て開會したる社會政策協會に於て

は上の兩教授以外の諸大家が官僚政治に對して最も興味ある討論を戰はして居るのである。併しながら我國に於けるが如く民間側若しくは政黨側には官僚政治と云ふものが全くないといふやうな見解を持つてゐるものは識者にはない。此の如く言つたならば、或は、我が民間には官僚政治の弊がないのであるとか又は民間よりも、多く官衙に於て官僚政治の弊があることを云ふのみであるとかと論ずる人もあるかも知れぬが、之は我輩は敢て反對するものでない。唯だ吾が國に於ては、絕對に健全なる官僚政治を除却して政黨も成立すべく、會社銀行も成立すべく、官衙も成立すべしと云ふに至つては、我輩の同意し得ざる所である。要するに、先に出版したる官僚政治の著者オルツフスキー氏の本意は社會的疾患の治療のために、如何なるものが其の診斷を行ひ處方を與ふべきか。各人の自由に一任して其の診斷を行ひ處方を與ふることが爲し得べきか

否、特に其の資格を有するものは國會、國家並びに良好なる新聞紙諸多の公共團體、又は私立協會であると假定して而して其の中に此の國會は自身に病的であつて他を救ふに暇なく、議員の多數も自ら病にかゝり國會既に精神の健康を失して居ることを論じ己むなく之を國家に委せんとすれば、即ち官僚政治其のものゝ本體は、不必要なるものではないけれども其の形式に於て諸多の病的關係を生ずるがために之を矯正して健全なる發達をなさしめ依て以て社會疾患の任に當らしめんことを希望したることは、ワグネル氏の說と其の歸する所を一にするものであつて我輩も亦私見を同じうする所である。

我輩は私かに命ずる今日「ソシアール、デモクラシー」を首唱するの徒は他日「ソシアール、ピユーロークラチー」となることあらんかと。世人或は直名の新しきを感ずるものもあらうが、既に「ソシアール、モチルヒー」なる名

辭は、ビスマルク公に依て唱道せられたではないか。

青年處世訓

(一) 東西文明の融和

『造物の眞意に溯り、人類の最大幸福を助長するは東西文明の合一に胚胎す。我が日本帝國の使命は二文明の融和を圖るにあり。』

我が日本帝國は其位置が極東にあるが、今や東西文明を調和して、世界進歩の爲に力を盡し、人類の幸福を增進する上に於て最も都合のよい、優れたる地位を有つて居る。東洋と西洋の文明を互に融通すると云ふ事は[illegible]に於ても爲ることが出來る。否現に爲しつゝあるのである。而も日本が特に[illegible]に於ては世界無比の地位を有つて居ることは何人も否認することの出來ない事實である。

若し夫れ東西の文明が圓滿完全に合一することが出來ずして、相互に矛盾衝突をする樣な事にもならば、延いて世界の平和を害し、人類の幸福を妨ぐることの多大なるべきは無論の事である。

世には眞禍とか白禍とか云ふ事がある。是は皆自ら事の末節に拘泥したるの論で、其の源泉を究むれば固より云ふにも足らぬ事である。所謂造物の眞意に溯り、人類の最大幸福を助長するのの道は、一に東西の文明を融和合體することより起るものであると自ら確信するのである。新時代の新智識を得て居る者と自ら任ずる者は、日本帝國をして斯の如き平和的使命を圓滿に遂行せしむる上に於て、成算が自ら存すべきは言ふ迄もないことである。而して此事たる世界の何人も非難するを得ざるは余の信じて疑はぬ所である。

(二) 平和の進程

『世界平和は强行的なるべからず、世界平和の進程は、人類教育の進歩に伴ふて徐々たるべし。』

世界を平和にしやうと云ふ主義は世界の輿論である。人性の根本的傾向であるから、何國でも原則としては固より異議のあるべき筈はない。然し此の平和主義の運動は二十世紀の特產である。露國皇帝陛下が唱道せられたる萬國平和會議と云ひ、海牙仲裁裁判所と云ひ、萬國平和協會の擴張と云ひ、赤十字社事業の發達と云ひ、其他甲の會合、乙の議論、種々なる手段を以て戰爭の慘禍と、其罪惡とを一掃せんとする計畫は一般人類の爲め大に悅び且つ賀すべき事で、我輩も此の運動に多大の興味を有する一人である。其が切實に有效に指導せられんことを衷心から熱望するのである。

併しながら我輩をして切言せしめば國際の協定で世界の平和が絕對的に保障せらるゝと思ふ人は、協定と云ふ事が大なる力を持つて居ると確信するのである。兼て人間の歷史を忘却し、且つ人間の性情を無視するものである。一切の軍艦を破壞し、一切の陸海軍々人を解散して、そこに世界平和立所に到ると思ふ非軍國主義者あらば、其れは淺慮である。軍職を厭ひて軍事を避けんとする青年輩あらば、其れは人間の歷史を知らざる無識であると思ふ。

血を流すと云ふ事は必らずしも不祥でない。況んや血液は一種の消毒藥なるに於てをや。然り血液は一種の成形素である。ゲーテは曰く、

"Blut ist besonders Saft"

實にその通りで鮮血なるものは天の靈漿である。

戰爭は元より酷愛すべきではないが、それよりも一層險惡なるものが世に少

くない。その凶惡なる禍源が存する以上は戰爭は到底避くべからざる趨勢である。人類が爭鬪の生活を經て平和の生活に入る樣になつたのは、之を徐々にして確實なる人間の心意道德觀念の向上、即ち敎育進步の結果であると云はねばならぬ。徐々にして確實なる敎育の進步が前に言へる凶惡なる禍の根源を芟除し盡してこそ始めて世界平和を齎すべきである。確實に秩序的に形成した平和でなければ眞の平和とは言はれない。

(三) 最善最優の人たれ

「余は日本を尊重す、大和民族を信愛す、我が日本をして最善最優のものたらしめんとするは世界人類の爲なればなり。」

六合を兼ね八紘を掩ふとは神武皇祖が大和國橿原に宮居を定めたまひし時の

御詔勅である。

四方の海みなはらからと思ふ世に
なぜ浪風のたちさわぐらむ

之は日露戰役中、明治天皇陛下の御感懷と洩れ承る。博愛衆に及ぼし、古今に通じ、中外に施して謬らざる天道を行ふのは、陛下の御聖慮と伏してうかゞひ得るところである。

世には一派の論者があつて、一國民が自國の國利民福をのみ考へて、他國に想及せざるは偏狹である。人間は個人として存在し、國民として存在し、人類として存在する。我々は世界人類の一員としては國家を超越し、全人類の利益と幸福とを圖らねばならぬと云ふ。成程道理である。

人間の生活は個人、國民、人類と云ふ三の事實を包含することは正確であ

る。然しながら世界人類の爲に計ると云つて、自己の兩足が立つて居るこの國土を忘却するのは幽靈論ではないか。世界人類の平和と文明とを增進するには自己の屬する國家を最優最善のものとすればそれでよろしい。それが第一である。

國家を最優最善のものとするには、先づ以て國民が個人として正善のものとならざるべからざるは言ふまでもない。正善なる個人相聚つて國家を强くし善くし正くし、以て萬國をして我に倚依せしむるのが吾人の志望である。少くとも日本國民の天任はそこに置きたい。

我を忘れて他に走るのは虛妄である。國家を超越し、民族を脫却して世界人類のことを考ふるのは空想である。虛妄や空想は近代人の擯斥すべきものである。國家主義は一種の人道なりと云つた人があるが、强ち牽强附會の語なりとは云へぬ。正に眞理の一端を掴んで居ると思ふ。

日本人たらんものは日本を愛せよ。愛せざるは日本を了解しないのである。『愛するは了解なり』で、吾人は須く日本に立脚して、其眼は無限の高さを仰ぎ、其手は永遠の廣さを蓋ふべきである。

(四) 勇氣と意氣

『日には玄米と梅干、手には文明の利器。』

我が日本帝國が西歐文明國と戰つて恒に强く、常に正しい。其の理由は種々あらうが、最も看易きは國民が平易簡直なる生活になれて、玄米と梅干とを食ひながら、萬里の懸軍に毫も心身の疲れを現はさず、而もこの古日本的風習にありつゝ、西歐新文明の機械を手足の如く活用するところにあると思ふ。

大和魂は龍肝鳳髓の美味中にあらずして、飯粒一粒の中にある。日本主義は梅干一個の裡にある。

國富めるものは民弱く、物足る時は膽鈍る。勇氣とか意氣とか云ふのは一味の蠻俗として決して之を撥ひ無くすべきものではない。簡易生活は人間最上の生活法である。過度の文明は吾人の原始的心性を銷亡せんとする。文明の利もそこにあるが、その弊もそこにある事を考慮しなければならぬ。玄米と梅干なるかな。これを服膺する時は日本の疲れ弱らんとする時であるかも知れない。

(五) 日本の世界たらしめよ

『日本は日本の日本たるべきか、否第一に世界の日本たるべし。第二に日本の世界たらしめざるべからず。』

國人口を開けば輙ち曰く、日本は世界の弾國なり、一等國なりと。それは眞實である。開國以來茲に五十餘年、國權外に張り、國務内に整ひ、皇運隆々として旭陽の如く興進せるは他に多く類例を見ざる所にして、甞ては清國の屬領と誤認せられし一小島國家、儼然たる獨立國として立ち、維新の創業より日清日露の二大戰役を經て、世界列強の班に伍し、一等國となりたるは實驚である。

曩に樺太、臺灣が我が皇の稜威に服し、近くは朝鮮をも併合して、新領版圖頓に廣大となり、今や昔日の島帝國は大陸國となつた。將來發展の程窺ひ知るべからざる事である。日本は日本の日本ではない。東洋の日本でもない。世界の日本となつたのである。

日本も軍事に關しては略大段落を告げたのであるから、五千萬の國民は宜し

く氣宇を大にして、是より新に文明を促進するに力を致すべきである。殖民は、あれ、産業にあれ、工藝にあれ、學術にあれ、其施設計畫は須らく世界的なる事を以て規模としなければならぬ。然るに實際經營する所を見れば何うであらう。百般の事業は遺憾ながら一等國たる名と駢馳せず、未だ舊來の島國根性を超脱せず、眼前數歩の内を考へて小事に齷齪たる傾向がある。遠く將來を慮り、世界的眼光を以て事に當るものは極めて少ない。是は大日本帝國の名に對して、六合を兼ね八紘を蓋ふ大皇威に對し奉つて、恐懼して且つ發奮せねばならぬ所である。

我が日本人たるものは何人も世界の日本人たることを自覺し、世界の日本人たる信念を以て、全人類の幸福と發達とを圖り、結局世界をして日本の世界たらしむるやう奮闘せねばならぬ。

(六) 共同團體の道德

『信愛せる共同團體の道德、これぞ新しき社會道德なり。』

新時代の人々が道德上の理想とするところは相互信愛せる共同團體の道德である。自分も他人も倶に尊嚴を有して居ることを認めて互に敬愛し合ふ團體である。此團體が自覺せる人格として確實に自由に行動する。かくてこそ眞に人類の進歩と向上とを期し得るのである。孔子は『人にして信なくんばその可なるを知らず、大車輗なく小車軏なくんば何を以て之を行らんかな』と云はれた。他人と自分とは二物であるが之をつなぐものは信義である。信義を以て人と交れば、互に心感通し、信義なくして交らば、自他共に誠なく、我彼を信せず、彼我を信せず、終に人道を蹂

るのは目前の道理である。

道徳はそれとして政治の本源も信の一字に歸する。子貢政を孔子に問ふた時、孔子の曰はるゝには『食を足し、兵を足し、民をして之を信ぜしめん』と、子貢曰く『必ず已むを得ずして去らば斯の二者に於て何をか先にせん』と、孔子曰く『兵を去らん』子貢三たび問ふて曰く『必ず已を得ずして去らば此二者に於て何をか先にせん』孔子曰く『食を去らん。古へより皆死あり、民信なくば立たず』と。

上の心に信なければ民たるもの上を信ぜぬ。いかに規則命令を出して下知するとも、民に信なければ法令破れて行はれない。民上を信ぜざれば上につかふるに眞實の道なし。兵も捐つべし、食も棄つべし。されど信は去るべからずと云はれたのはこゝの道理である。要するに信と愛とは政治道德の根源である。

青年の進退

(一) 取るに足らぬ愚論

我輩が青年に對して、何う云ふ希望を持つて居るかと云ふに、我輩は何も格別に希望などは持つて居ないと答ふるより外はない。何せと云ふに青年には青年の天賦の性質、特長と云ふものがあると同時に、こつちの希望と青年の希望とが相容れない事がある。これは何も怪しむに足らんので、人の心は其面の異なるが如くであるから、從つて希望も自ら異なる事は當然である。それであるのに己れは現代の青年にかく〳〵の事を希望するなぞと云ふ論が折々見えるが、これ位愚論はあるまい。それゆゑ我輩の考へは青年は青年らしくさせて、

放任して置けばそれでよいと思ふ。

青年も人間たる以上は、そんなに八釜しく希望とか、何とか云つて青年許りを責めなくもよい。いくら責めて見たとて、惡くなる者はつまり惡くなり、善くなる者は捨てゝ置いても一人前の人間になる。我輩なども何れかと云ふと、放任されて生長したものであるが、何うにか斯うにか一人前の人間になつたのであるから、さう八釜しく言ふ必要はない。殊に青年會にでも加名して居る青年なれば、一層關係しない方がよからうではないか。

(二) 親の注文通りに行かず

尤も親が偉い人であると、自分の子も偉くさせたいと云ふ考へより『お前もお父さんの樣に偉くならなければならないよ』などと、子供の時分より、偉く

なつて貰ひたいと希望して居る者がある。これは親の情として然るべき事で、又誰れだつて偉くなりたい、させたいといふのは宜い事に違ひない。けれども人には天賦の性能があつて、さう注文通りに行くものでない。又親が偉いからと云つて子も必ず偉くならなければならぬと云ふ理窟がないと共に、大臣の子であるから、必ず大臣となつて、一世を風靡し、大學者の子であるからとて、大學者となつて、名を後世に垂れる樣にしなければならぬと云ふ樣な馬鹿な理窟はない。尤も學者の子供が強て他のものになる必要もない。つまり各自其享くる處の、天賦の腦力如何によつて、去就を決める事が肝要である。

(三) 世の中を渡る二法

こゝが親たるものゝ最も注意しなければならぬ事であるが、又青年たるもの

も、自ら省みて自己の如何なる職業に適ふやを知らんければならぬ。其適否を知らずして世を渡らうとするから、往々中途にして失敗するのである。

一體、世の中をうまく渡らうとするには、二つの方面のあることを忘れてはならぬ。即ち一は消極主義と申して、萬事控目に何事につけても少しも出しやばらず成守を以て本として行く人がある。併し此の方法は場合に依つては、大に有效かも知れないが、方法としては動とすると引込み思案になる事がないとも限らぬ。そこを松陰先生の『かくすればかくなるものと知りながら止むに止まれぬ大和魂』の意氣を以て、ドシ〳〵積極的に進むことになると、どうしても敵を受け易い。そこでこの短い一生を、たゞ〳〵一身の安壽のみを計つて消極主義にやるか、それとも初めより艱難を覺悟して積極的にやるか、此が發展と保守との岐れ目のところで、人生を無意味に了るのも、亦積極的に過すのも

このポインの加減にあるのである。

(四) ルーズベルト氏の態度

この點より見て、我輩は毎にルーズベルト氏に敬服して居る譯は、氏は如何なる場合に於ても、積極的態度に出て、毫も引つ込み思案流を用ひた事がない點である。彼が時近の行動を見ても、あんな主張を彼の口より出せば、必ず人望を失墜し、名聲を傷くる事は初めより分り切つて居る。それを充分知りながら、あの樣に斷々乎として己れの所信に殉せんとする其意氣と行動は、實に敬服せざるを得ない。蓋し一人前の男子たる上はこれ位の意氣がなければ、何事も出來るものでない。

今日の父兄も、この消息をよく翫味しなければならない。たゞ〳〵家の爲め

子供の爲め許り考へて、自分等の定規に嵌めて、斯うしなければならぬと極めて仕舞ふなぞと云ふ事は面白くない。能く子供の性能を考へ、其の性能に適する教育の仕方をしないと、子供は却つて身を誤る樣なことになる。かう云ふところに出入する者に限つて、お子さんが偉いとか、何とか無闇に褒めこかす爲め、子供自身も實際三分の能力よりないものが、五分も六分もあるかの樣に、所謂自惚心が出て來るはまだしも、さア立派な青年となつて活社會に放り出して見ると、偉いとか悧巧とか評された割合に大した働きがないので、第一本人自身も苦痛を感じ、父兄も亦少なからぬ失望するなどと云ふことは珍らしくない事で、其の罪は兩方にあるのである。

(五) 教育の造る人間

そこで、學問するものもさせるものも、共に考へなければならぬ事は、今の時代の教育は偉い人間を造らうと云ふよりは、寧ろ知識の平均したものを、造らうと云ふのであるから、皆團栗の眷くらべである。その團栗中人間にならうとして、田舍から無理算段をして東京に出て、學問するものが多い。而かも其學問の仕方たる、將來を考ふるでなし、又自分の立脚を反みるでなし、唯漫然として隣りの杢兵衛が東京に出て勉強して居るから、おれも行つてやらうと云ふ樣な調子で、ひよいひよい出て來る。尤もこれは往昔と違ひ、學問の仕方が簡便になつたからでもあらうが、たゞ〳〵學問さへすれば、人間は立派になるものと思ふたら大間違ひである。この頃の學界の樣子を見ると、大學などに入るものは、意氣揚々と、大學を卒業したならば、直ちに外交官か、大銀行大會社の重要の椅子を占めて、ウンと働いて見やうなどと、所謂一種の空想に驅

られつゝ、大學を卒業し、さて何處へか就職しやうとなると、サア口がない、やつと探しつけて見ても二三十圓より貰はれない。それでは湯も水も碌に飲めぬと云ふので、御本人の煩悶は固より、父兄も今更の如く嘆き、初めには大に偉くなるものがさつぱり偉くならない。これでは世間へも顏むけがならぬと云ふので、とう〳〵煩悶の極、神經衰弱でも起すが關の山である。

(六) 青年團員の執るべき方針

斯く云へばとて、我輩は學問全廢論者でない。國民は固より教育の必要なるは、今此に言ふ迄もないが、我輩の考へとしては國民は今日の處、普通教育さへあれば、それで澤山と思ふ。尤も特殊の研究をするとか、又高等の學問をしなければ仕事の出來ないと云ふ人なれば別物であるが、さもない人は中學卒業

で充分である。何も普通の業務を執るのに、それ以上の知識を要する必要がない。殊に地方に居る青年は、地方の青年會に於て其の團體の力によつて、時折學者を聘して、新時代に處する講話を聞いても充分であらう。其外さう云ふ類の雜誌を讀んで、徐に常識を養ひ見聞を廣くすれば、それで立派に國家が治つて行くべきである。高等の教育を受けてのち、就職口なきに煩悶すると云ふよりは、其教育を受くる間に、何なりとも生產的の事業をする方が、却つて國家の利益にもなるであらうし、又青年自らも身を過ると云ふ樣なことはなからうと思ふ。

要するに今日は空理空論を離れて、實地に就くと云ふ潮流となつて來た折であるから、隣りの青年が東京に出て、勉强して居るからと云つて己れも且たいなどと云ふよりは、却つて己れの立脚地を堅固にした方がよい。今日は實力の

世の中である。いくら學問したからとて、實力のない者には、誰れも相手になるものはない。況んや日本は實力に於て、世界の先進國に比して劣つて居る。先づこゝに氣をつけるが肝要である。

奮闘社會と青年の本領

(一) 先づ自家の本領を覺れ

現今に於ける青年は、將來必ず非凡の大人物となつて、大に社會の爲め國家の爲めに雄飛して見やうと云ふ大なる希望を持つて居るに違ひない。蓋し血湧き肉躍る青年にして、此の希望あるは寧ろ當然の事であつて、苟も青年たるものは、之れ位の希望がなければ仕方がない。

併しこゝに一考すべき事は、自家の本領を計らずして、無闇に猛進することがあるならば、所謂彼の獅子や虎と同じ結果に陥らぬとも限らない。何となれば彼の猛獸なるものは、如何なる山林原野をも横行闊歩し、如何なる敵をも蹂

躊躇して、意の儘に棲息して居る。これと等しく風俗を超越したる大人物になると、周圍の狀況などに頓着しない。恰も猛虎の野に在ると同じく、四圍の總てのものを踏みつけて、己れの心の赴く方向に突進することが出來るのである。けれどもこの事たる大偉人にして初めて能くすべきの事、普通一般の人にして此の眞似をしたなら却つて、それこそ暴漢として人は相手にしなくなる。それには己れの力量と本領とを自覺することが何より緊要な條件である。

(二) 奮鬪的社會と運命開拓法

蓋し、自家の本領を發揮すると云ふことは、即ち自己を知ると云ふ事であつて、吾人が活社會に處し、奮鬪場裡に游泳するには、此の自家の本領を知るなくんば、非常なる不利の地に陷ることを豫め自覺せんければならない。

そこで奮鬪的社會に處して、能く自己の運命を開拓し得るやと云ふに、吾人の考ふる所によれば、實に二大案件の此の國を横斷するものあることを確信するのである。その第一要件は周圍の事物に能く順應同化することにして、此の原則に背くものは、所謂世の失敗者たることを免れない。然るに今日の青年を見るに、往々此の原則に背き、自家の本領那邊に存するかを知らず、徒らに突飛な眞似を敢てし後ち遂に後悔する樣なことになるのである。見よ、彼の青葉の青虫を、又北國の白熊を、彼等は皆周圍の事情に適應同化したる最も活ける證據にして、若し青年が此の原則を自覺したなら、強て故郷を飛び出して都會にのみ集るにも及ぶまいと思ふ。

(三) 處世の要道と宇宙の原則

第二の案件は、自己の立脚地――境遇を認識することが最も肝要の事であつて、自己の力量を測らずして、徒に向上しやうと云ふ樣なことは、早計の甚しきもの、斯くては進化にもあらず、又順應にもあらず、畢竟己れを知らざる奴隷に外ならぬ。

蓋し處世の要道は、此の二者を巧みに按排するの點に存し、その按排よろしきを得たるものが即ち成功を全うするので、取りも直さず、之れが宇宙自然の大原則を認識したものと云ふことが出來るのである。もしそれ此の原則に戻ることあらんか、社會國家も爲めに亡ぶべく、吾人の活動も自ら停止し、又運命も閉塞せらるゝものなるは、此に再言するの必要はなからう。

(四) 順應同化の一大法

例へば或る目的を以て地方より都會に集り來る種々階級の職業の人があるとせよ、そして其等の人は東京の地理人情風俗を學びたる曉には、服裝及言語應對まで東京化して來る。それは寧ろ當然のことであつて、若し此の同化がなかつたならば、都會の生存競爭に勝つことは出來ないのである。

處が、同化と共に墮落して仕舞ふものが中に多い。これは同化でなくして寧ろ惡化である。その結果は國家の面目、自己の本領迄も沒却して仕舞ひ、田舍の悠長たる獨特の氣風、賢忍なる意志、質朴勤勉の態度は、いつの間にか失つて仕舞つて、徒らに輕薄なる風潮に投ずるもの決して少なくない。

惟ふに、非凡の人物、大偉人の生ずるは、決して都會でなくして概ね地方である。殊に山紫水明の地に多い。彼の山靈の氣人をして偉ならしむとは即ち此の處を云ふので、地方には己に大偉人、非凡人となるだけの要素を備へて居る

のである。それを知らずして無闇に東京に出て、片々たる國民否小心翼々たる小人となつて仕舞ふのは、誠に情けない次第ではないか。

(五) 和順と盲從を混同するな

由來、日本國民の間に、和魂漢才と云ふ流語があつたものだが、近來は和魂洋才でなくてはならぬ。日本の今日は往時の鎖國制度を脱してゐるから、大に非凡の人となつて、國外に雄飛しやうとするには、本領の發揮は勿論の事、所謂和順の精神を養成して行くの必要がある。併し和順と云つても、決して盲從ではない。盲從では元より仕方がないに依つて、此に讀書・識見、手腕、若くは不變不動の精神と云ふ如き人間處世上に必要缺くべからざる根本的概念の要があるのである。

(六) 余の悅はざる教育

それで、此等の概念をどうして要求するかと云ふに勢ひ教育の力によるより外はないが、惜むらくは今日の教育の制度たる青年をして同一模型の中に入れて仕舞ふのは、恰も一種の賣品の樣な趣きがある。斯くては人間本來の根本精神、自家の本領を殺すこととなる。こゝは今日の青年たるものゝ大に注意したきものである。

現代青年に對する注文

(一)　身の程知らぬ青年

近來、我輩の痛切に感じて居ることは、地方青年の都會羨望病、學問崇拜病に罹り、今や病毒は青年の膏肓に入りつゝある樣に思はるゝのである。

是れ所謂身の程を知らざるの甚しき者にして、苟も二十世紀の青年なれば、已に大に反省してよい時である。處が反省どころか、益々其熱が高くなつて來て居る。其の結果は猫も杓子も都會に出て、どんなことをしても一つ學問して成功仕樣と心がける。成る程志は感ずべしであるが出來ない事をやらうとしたとて仕方はあるまい。それよりも先づ父祖傳來の財產を益々增進する工夫を

講ずるがよい。それをすら出來ないものが、よし多少の地位や名譽を得て見たものゝ、一朝嵐に會つたなら、直ぐ飛んで仕舞ふではないか。飛んで初めて後悔したとて最早や及ばぬ話であらう。それよりは諸君が已に掌握せる飛ばない或る物をして、愈々發展進步させる工夫と要心が肝腎ではないか。已に諸君の眼前には幾多の好材料、發展すべき天惠と餘地があるのである。先づ諸君はそれを拾ふことに着眼するが專一である。

(二)　一二の成功者に憧憬するな

處が、青年界を通じて斯う云ふ一大疾患が橫はつて居る。それはこゝに一年五十俵取るものと、三十俵より收穫のないものとがあるとすると、五十俵取れるものは三十俵取るものよりは收穫の多きを鼻にかけて、多少威張つて居る。

そこで三十俵より取れない者は憤慨のあまり、東京に出て多少學問し、僥倖にも相當の地位を得、官報や新聞に其名の紹介さるゝと共に、その歸國に當つてや地方人士の夢にも知らざる服裝と、カバンでも提げて歸つては大々的に己れの功名を吹聽し、而かも曰く『我輩も猫の額同樣の田や畝に嚙りついて居つた日には、今頃は矢張水呑百姓で終るより仕方はなかつた』などと、鼻叱瞭天的の大法螺を吹くが爲めに、無垢の青年は忽ち煙にまかれ、我れも〳〵と都會羨望熱、學問崇拜熱に浮かされた結果がどうなるかと云ふに、祖先傳來の家屋敷迄も賣り拂つて都會に出て、我も彼のやうな地位になつて、早く錦衣還鄕の日を得たいものだと、たゞ〳〵先きの夢ばかり見て、脚下が丸で御留守になつて居るから、いつ迄經つたとて功名どころか、碌々飯も喰へない。學問した果てが友人を賣つたり、人を瞞したりして、畢竟法律の制裁を受けるやうな始末に

なるものが頗る多い。實際のところ多少なり功名を遂ぐるものは千人中一人位の者で、あとは皆手後となつて居るのである。そんな下らぬ事に骨身を折るぐらゐならば、寧ろ父祖の田畑を大事に守つて居た方がどれくらゐましか分らぬのである。

(三)　都會的人物と地方的人物

一體、人間の性能に都會的のものと、地方的のものと二大區別がある。その區別を能く知らんければならぬ。その區別を充分省みないで、飄々乎として空想に驅られて、都會に出たとて何を爲さんやである。又自分の性質が地方都會何れに適するやを知らん樣なものでは、何處に居たとて功成り名遂ぐることの出來る譯のものではない。殊に都會なるものは、精神修養、實際の人物たら

んとするには、餘りに不適當のところである。輕薄なお世辭たら〳〵の眼先き許り利く人間となるにはよいかも知らないが、どつしりした有爲の人物とならんとするには、こんな空氣の中に居ては駄目である。之れを歷史に徵するも、將た現在に見るも、有爲の人材、力ある人物は何處から出て居るであらうか、大抵は地方から出て居るではないか。要するに人間の價値は至誠にしてどつしりしたものでなければ駄目だ。至誠神に感ずであるから、如何に山奥に粗餐菜羹に生命を繫いで居ればとて人は之れをその儘に捨てゝ置くものでない。然るに都會に出て、少し許りの學問を鼻にかけ、我は天下の學者なり、我は大學を出たものだと言つたとて、社會はおいそれと買ふものではない。

(四) 學者を拜んで居るやうでは駄目

そこで我輩の怪しからんと思ふて居るのは、學者は我れ一人澄めりと言つた樣な態度で、世間より超然として社會ののけものになつて悅んで居る。不學者はアレは學者なりとて手を合せて拜んで居る。が、是れ實に社會上の一種の病氣にして、社會の進まないのもこれが一大原因を爲して居る。これは是非共其間を大に接近しなければならぬ。若し今日の樣な學問界ならば、所謂讀書の虫で、社會に何の益もない。寧ろ無きに優る譯である。さう云ふ思想の先生方が集つての敎育であるから、所詮活きた人間の造れやうがない。地方にあつて、神童だの、何のと褒められた青年が、一度都會に出て敎育を受くるに當り、案外莫迦になるのもつまりはこの爲めである。故に人の子を害ふものは今の學者なりと云ひたい。嘗ても菊地博士がやつて來て、臺灣の學校が東京の學校と連絡を斷たれた○は實に不便だとの話しもあつたが、成る程それは不便かも知れ

ない。併し義務教育を了へ、更に普通教育の了つた者にして、社會に出で働くことの出來ない樣なものでは仕方があるまいと思ふ。青年は必らずしも大學を出たから偉くなるとは限つて居ない。寧ろ或る意味より云へば學問と云ふ一種のタイプにはまつて、動けない奴が澤山ある。折角高等の教育を受けて、畸形兒になつてはたまるものではない。

(五) 學校出身者の實力

然り學問のタイプにはまる位のものは恕すべしとするも、甚だしきに至つては中學校や高等商業學校卒業者でさへ、碌々手紙さへ書けないものがあるに至つては、豈夫驚かざるを得んやである。

元來、手紙なるものは、その人の意思を表はすものであると共に、手紙の書き樣如何に依つて、先方の信用を受くると否とに關することが少くない。彼の英國の世界の商業地として最も信ずべき國民として世界の等しく認めるに至りし所以のもの、そも那邊にあるやと云ふに、一片の手紙にあることを思はゝ僅かに一片の手紙なりとて、決して等閑になるものであるまい。蓋し英國々民は態度の悠容たる上に、事に接して誠心、加ふるに手紙の書き方が非常に眞面目に、充分誠を現はし一點輕卒のところなき上に、要所々々にぴつたりとした要領を得た所あつた爲めに、遂に世界の商權を掌握するに至つたのである。之れに反して和蘭は元商業の殷盛なりし地なりしにも拘らず、手紙の認め方に於て粗暴の點ありし爲め、對手の感情を害し、漸次商權が他に遷つたのである。果して然らば手紙なるものは、極めて大切なるものであるに似ず、兎角之れを輕視する傾向のあるものは、やがて日本の信用を地に墜すのみならず、我が國の

商賣は何れの日を待つて發達が出來るであらうか、甚だ怪しい次第である。而して事のこゝに至る源は何れにあるやと云ふに、皆教育に於てよろしからざるの致す所にして、徒にツンドク主義の教育は何の効あるものでない。こんな風で一等國の商賣人として彼れとの貿易を仕樣などと云ふのは甚だ片腹痛い譯である。

(六) 洋行歸り羨むに足らず

又、諸君は近來の洋行歸りがハイカラであるを羨む必要がない。彼等は外國にあつて、何を研究して來るかと云ふと、殆ど御話しにならない。唯々五六年の長い間を、喰つて遊んで來た位に過ぎない。眞面目に勉强して智識をウンと詰めて歸り、それを日本の幼稚なる社會に應用して、我の短を補ふと云ふ者は

極めて少ない。これは我輩の留學で分る。我輩なども暫く獨逸に居たが、其害大にして得る所なくして空しく歸つて來たものだが、その爲め今大に後悔して居る。何しろ交際社會に立たうと云ふものは、英、獨、佛の三ヶ國語位知らんでは一等國の人民として實際巾が利かない。この事を痛切に感じたのは、我輩が民政長官時代、洋行をした時には通辯を連れて行つたから、大して不自由も感せずに仕舞つたが、後露西亞に遊ぶに及び、つく〳〵語學の必要を感じたと云ふのは、或る宴會に赴くと四方より話しを持ちかけられた。尤もこの時も通辯を連れて行つたけれども、四方より持ちかけらるゝ話しに對し、それ通譯それ通譯と通辯を煩はしたが、通辯とて四面六臂でないから、こつちの要求に應じ切れるものでない。かう云ふ時には自ら四方より持ちかくる談話に對する丈けの語學の素養がなければ駄目である。

然るにやゝともすると學校の教員などは、語はどうでもよい本さへ讀めればよいなどと言つて、自分の會話の出來ないのを蔽はんとして居る語學教員があるが、我輩は實に怪しからんと思ふ。故に諸君は學校出なりとて、さう大して偉いものでもなければ、又洋行歸りとて羨むにも及ばないと思ふ。

(七) 己れを知る者は幸なり

於此現今の青年に一大注文を敢てする要點は、幸福なる自己の地方を捨てゝ、空想に驅られて都會に集りて或は學問を萬能の如く心得て、學校の門をくゞるにあらずんば何事もなし能はずとなすが如き、與に誤れるの甚しきものであつて、己れを知らざるの大なるものであると云ふべきである。

故に諸君は諸君の位置と性情とを自ら反省し、都會に出て充分成すだけの確

信と力量あるものにして、初めて學びの庭なり、都會に集るがよい。隣りの權兵衛が東京に出たからとて、その眞似をして空想を以て都門に集るが如きは、苟も一等國たる青年のとるべき措置でない。已に今日の我が帝國は往時の帝國ではない。世界的の帝國であると共に傑出したる人物にあらざる限りは、笊で測る程ある。希くは諸君、笊で測らるゝ迂愚を自ら求むるよりは、先づ地方の發展を計るが第一である。地方衰微は所謂帝國の衰微である。同時に諸君の退歩である。諸君は帝國の中堅たる青年たる事を自覺し、その自覺の下に各々長所を發揮するがよい。此の一事敢て地方青年團諸君に希望する我輩の赤誠である。

積極主義たれ

(一) 積極と消極

世には積極主義の人と、消極主義の人と二種ある。即ち進取的の人と保守的の人とを云ふので、積極主義を陽とすれば、消極主義は陰である。けれども我輩は現今青年諸君に對しては、何所までも積極主義、進取的であれ、自己の主義、自己の所信の爲めには、潔く殉ずるの精神を保持し、奮鬪しなければならぬと注意する。我輩は今日まで常に積極主義で押し通して居る。あらゆる難事に遭遇しても、踏み破る千山萬岳の意氣は少しも消滅しない。若しも現代の青年諸君に積極的勇氣が失せたならば、我國の將來は如何、寧ろ悲しむ可き現

象を來すであらう。

(二) 積極主義の代表者

積極主義者の典型として、常に我輩が崇拜する人物に、ナポレオンあり、太閤秀吉あり、最近に至りて前米國大統領ルーズベルト氏あり、倶に進取的で一生を送つて居る。ナポレオンの過去を追想するに、自ら信じて起ち、猛然として奮鬪し、自己の主義主張に殉ぜんと初めから期して居た。彼の進軍喇叭は歐洲全土に鳴り響いた。佛蘭西の國民は、幾萬となく彼の劍戟の下に斃れた。されどナポレオンの意氣は壯とすべしである。多く彼の犧牲になつた佛蘭西の國民は、現代に至るも尙且つ彼を敬慕して止まない。

(三) 千難萬苦と闘ふ人

殊にナポレオンの敵たりし英國人、露西亞人も彼の生涯は偉大なり、積極主義者の模範なり、彼の執りし行動、その精力絶倫なりしこと、意氣は實に尚ぶべきであると言ひ傳へる。之れ果して何の爲めであるか、我輩は曰く、積極主義を貫かうとした意氣の壯んなりしことであると、我國でナポレオンに比すべきは太閤秀吉である。尾張中村に身を起して以來、全生涯を猪突主義で押し通し、其の意氣の旺んなる、行動の破天荒なる、終始積極主義で一貫した。樂天的で餘裕綽々天下我輩の右に出づる者ありやと、自ら偉なりと信じて猛進した。ナポレオンと言ひ太閤と言ひ、自己の生涯には何れだけの仕事が出來るかその腕試めしであると自ら信じ、千難萬苦と闘つたのである。

(四) 保守よりは進取

故に我輩は保守的なるよりは、進取的雄大の精神を青年諸君に涵養せしめ、且つ實行して偉大なる人物の出でんことを期待する。自ら信ずる事業の目算が立つたならば、獅子奮迅先じて人を制し、決して人後に落ることなかれ。積極的なれ、吾が腕は健在なり、吾に及ぶ者果して天下幾人かある。たとへ幾人あるとも、諸君は常に「我一歩後れたり。前後左右には難嶮あり、人の往く能はざる路もある。然し我れには道を開拓する自信あり、勇氣あり、忍耐あり、倒れて後尚止まざるの意氣あり」と常に覺悟して進め。然らば諸君の前途には寶の山あり、月桂冠あり、最後は幸福なり。我輩は唯一言諸君に忠告せん、即ち日本青年は、積極主義、進取的であれ、萬事海外諸國に範たれと。

勞働の變遷

(一) 朝廷雨露の恩を布く

古今勞働の變遷は種々の點に渉る。極く大要をかい摘んで見れば、勞働は働きであつて、報酬が添ふ。此の報酬には金錢があり名譽がある。而して其釣合が賃金を以て大部分とする場合と、名譽が大部分となる場合があつて、種々に變遷する。それが即ち古今勞働の變遷である。

一體勞働と云ふ事は身體のみの運動ではない。心の勞働と相俟つて其の効果を大ならしめるものである。如何なる下等の勞働と雖も身體のみでは成立しない。必ず多少共精神が伴はなければならぬ。昔者精神的の方面と肉體的のそれ

との間には境界線が引かれ、截然と區別されてあつた。それが「時」と云ふ媒介者によつて體の働きの勞力と思ふて居るものと、學問とが近付いて來て、いつの間にか固く握手して一緒になつて居た。是れが文明である。昔の勞働と異る處である。日本にも勞働は卑しいものとしてあつた。併し段々考へると勞働程神聖なものはない。勞働は人類の最も勤めざる可からざるものなる事が、文明生活により次第に明にされて來た。土木工學士と云ふ者は人夫同樣に輕蔑せられ、法學士と云へば神樣の次位に尊まれて居たのは、まだ餘り遠い過去の事ではない。

希臘時代から三千餘年の間如斯にして卑められ來つた處の勞働は、近代に至り英國にカーライル出で、勞働神聖主義を皷吹するに及んで、世界の風潮を一變した。我輩の今日の所說は場當りを云ふのではない。諸君に油を注がんと

する者ではない。カーライルの説を敷衍するものであつて、文明の結果、非常に永い年代の上に立つた經驗の基礎に、勞働神聖主義は築き上げられて居るのである。而して之に從事するものは即ち諸君で、大小の官吏重役等も此の主義の中に含蓄せられて居るのであつて、これが所謂奮闘の汗になる。上の汗と下の汗と一緒になる處に始めて、朝廷雨露の恩を布くと云ふ事が出來るのである。

(二) 勞働尊重

國有鐵道に於て、形の上に同じ帽子を冠つて居るもの、之が上下の汗を合して朝廷雨露の恩を表はしたものである。動もすれば帽子を冠つて居ないから勞働を卑しめやうとする者がある。斯う云ふ者は餘程血の廻りの鈍い者で、形の

上から敎へる必要があるのである。法律でも其通り、人には賢愚不肖がある。法律などは存外迂遠なつまらぬものである。世人多くの中には、刑法を知らぬ人は何人居るであらう。けれども知らなくとも縛られるやうな事はしない。それなら法律などいらない樣なものであるが、あれは裁判官が勝手な事をせぬ爲である。必らずしも人民がやらぬ爲めのみでない。此點から云ふても形の上から制せねば人を統御する事は六ケ敷いのである。

國有鐵道にしても、私設鐵道にしても、其他の交通機關にしても、敎育と云ふ事は最も肝要な事項で、學者の下地を作る爲ではなく、有効的に勞力を使ふ勞働の効果を大ならしめるために忽諸に附すべからざるものである事は、勞働と學問との一致し來りたる傾向のくだりに述べたが、こみ入つた事業には多くの場合に於て危險を伴ふものである。之は外から法を設けて救ふ事も出來るが

自ら各個人が無意識に救ふやうにせねばならぬのであつて、それには教育によつて危險に接しても危險でないやうにする必要があるのである。これも亦一の親愛主義に外ならぬ。

(三) 共同連合の組織

親愛主義は如此にして各自の德になる。鐵道を止めても其の人の身體について居る。そしてそれが癖になつて居ると何處へ行つても所謂鐵道氣質が發揮され、世間の信用があつて、雷に其人一身に止らず、進んで鐵道の人の子ならば貰ひたいと云ふ樣なことにもなる。これが家族に及ぼす恩澤である。これ年來職務にあつて官海に主張し、鐵道の青年に向つて普及し企圖し來つた所以で、奮鬪の汗が無益にならぬやう、滴らし樣が上手になるやう希ふ處である。併

し直接勞働の任に當るものばかりではいけないから指揮監督者が要る。而して重役や上の官吏が此の汗を見過さぬ樣にせねばならぬ。家に寢て居ても暴風雨を聞けば現業者が如何なる事をして居るかと云ふ事がすぐに反射的に浮び、始終念頭を離れないやうでなければならぬ。料理屋から歸つても何事かあつたり火事のやうな事變に遭遇しても、すぐに飛び出して仕事をする準備が整つて居なければならぬ。斯くして上下汗を一にして雨露の恩を布くのである。制服制帽でないならば火事のやうな場合には巡査が入れぬ。鐵道や電車の者と云ふ事が全く明瞭でないならば通さないのである。此一例でも明で共同的の連合の組織の中にはいつたものは皆さうである。單獨でも何でも出來なくなり、連合的に組織されて行く。それが文明であつて、中途に於て巡査に止められると連合勞働が斷たれ、活動が阻止せられるのである。形式の必要は此點にある。單

獨勞働がオルガニスムになり、組織的になり、有機的になり、會社なり役所なり一の氣脈を通じないものが一つあると、身體の一部分を切つて捨てた樣なものになる。茲に會社としても他の組織にしても、連合協力の必要が起つて來るのであつて、之が古今勞働の變遷である。

連合組織を適當に運用せしむるには緻密なる作用が要る。此のこみ入つた働きを結びつける事について、彼れ是れ疎隔故障を生じ、別々にならぬやうにする機關の必要も起る。鐵道の機關の如きは、各般の分課に分れて居るから、これが一致をなさしむるのは是非共相當の方法が要る。それは鐵道に從事する青年の會合などである。

信愛主義の實行

(一)　信愛主義の意義と功德

總ての信仰、情に訴ふる信念なる者を堅くする事は、何れも同じ事を繰返す事が必要である。一向宗では南無阿彌陀佛を繰返し、基督敎ではアーメンを繰返すのである。而して其度毎に次第に感じを深くする。人の信念を堅固にするには幾度も同じ事を繰返す必要がある。

そこで述べやうとする所のものは相變らず信愛主義、家族的活動、一部と全部の關係である。又職務を執るに正確、迅速、明快に之をなし遂げ、斯くして各人の職業的氣質を作ることである。

信愛主義とは信義を重んじ相愛するの義である。此主旨は人間生活に必要なる缺く可らざるものである。下は一從事員の公務上の關係より、同僚間の交際若くは家族間にも押し弘め、人と人との間より又物にも及ぼすべきものである。世の中に節儉とか儉約とか云ふ事があるが、眞の節儉、儉約は物を吝むで節儉をすると云ふのである。即ち節儉、儉約も矢張此の信愛主義より發せねばならぬ。公務に就て筆、墨、ペン又は石炭、金物一切の物に信愛主義を實行すれば即ち節儉となるのである。是れは又役所の物に對してのみではない。此主義を次第に家族のものにも敎へねばならぬ。子供や妻を愛して、將來の幸福を慮ると同時に、子供にも妻にも筆墨から薪炭まで之を粗末にせぬ、ゾンザイにせぬ事を敎へ、之が公務より家庭の上にまで通じて行はるゝやうになつて來れば、これ即ち信愛主義の實現である。而して諸君が豫て此の主義を實行して

人に對し、物に對し、信愛の人たれば假令鐵道の方を罷めても、必ずや鐵道以外の他の會社に歡迎して雇ふてくれるであらう。又正確、迅速、明快に事務を執ると云ふのであれば、それが一つの信用切手と同じやうになつて、給料以上に信用を受け、將來の立身にも都合がよいのである。延いては又自分の娘までが、彼女はあの人の娘であるから性質がよいに違ひないと云つて直ちに話が纏まると云ふ樣な事にもなるに違ひない。又ならねばならぬのである。そこまで此の信愛主義は擴めねばならない。親が紙一枚釘一本でも粗末にしないとあれば、子も其の感化を受けて鉛筆一本紙半枚も粗末にせぬ樣になる。而して斯うなる事は實に將來の幸福を增進する所以ではないか。

(二) 鐵道に於ける信愛主義の効果

鐵道に於ては已に此の主義が實行されて、其成績が著しく良好なるを示して居る。鐵道院の統計表を見ると、一千哩の車輛走行に對し、注油が三升を要したのも、それが一升五合に減じた。又石炭が車輛一千哩を走る間に二千六百斤を要したるに（從來よりも別によい品を撰んだと云ふ譯でないのに）二千二百斤に減じ、一千哩毎に四百斤宛違ふやうになつた。

一塊の石炭が何れだけの働きをするかと云ふに、一斤の石炭は實に水二升五合を沸騰せしめ、七噸の空車を五十鏡迄運轉する力がある。こんなことが能く分つて來ると、心ある火夫は此道理を辨へて無闇に石炭をくべぬやうになる。そこで二千六百斤が、二千二百片で濟む樣になつたのである。我が鐵道走行哩は總計九億萬哩で、一千哩毎に四百斤宛違へば、總計に於て三億六千萬斤の差となる。偉大なる儉約である。此儉約より百萬二百萬圓を要する停車場等は容

易に出來る。油、石炭のみならず、信愛的家族的活動が判つて來るが爲に、槌を打つ職工の力まで、また線路上の螺旋を締める力まで、活力を與へるのである。斯くの如く時間の上にも、又場所の上にも此主義の行はれざるところなく、之を實行して國家及び各自の幸福を增進するに努められた諸君に對し、我輩は感謝せざるを得ない。

（三）家族的活動主義

鐵道の分課は運輸、保線、工場等種々あれども皆一家族である。で他の所屬の人の粗漏のために不意の事故でも出來し場た合、假令直接の責任はなからうとも、我關せず焉で、對岸の火災視して居るやうではならぬ。總て一致團結して事を爲す事が家族的活動であり、信愛主義の實行である。鐵道は一の大なる

家族であると考へ、各部を始め一課の長たれば所長でも驛長でも主任でも、同情を以て部下に對するは勿論、職工も運輸も保線係も同樣に一家族のあると思ひ、其間柄を圓滑にせねばならぬ。昔の會社又は官鐵などの從事員の間と比較するに、國有となつて以來頗る圓滿に調和されて來たのは、家族的活動の實現であつて、實に喜ばしい事である。又鐵道に於ては他の官業と違つて倶樂部や病院を設け、又上下鐵道從事員及び其家族までが同一所に會する會合其他の方法で智識を研磨し、心身を慰安して共同生活の愉快を得んとしつゝある。此等の事は充分に行き屆かぬけれども、次第に地方までも及んで來る事は認めらるゝ。斯かる事は他の官業に見ざる所で、信愛主義、家族主義の事實的活動である。

(四) 汗と汗を合せよ

又此等の主義を普及する事に附て、これが指導者たる鐵道青年會は米國にもある。其の會館の如きは非常に大きなものであつて、寫眞で見るに日比谷の諸官省よりは立派なものもある。ステーション中にも立派な青年會がある。

病院に於ても次第に實行せられ、從事員及び其家族の便利なる事は明である。我輩が之を計畫した時は、後藤は醫者の古手だからあんな事をやると、惡口したものもあつた。けれども世間の批評は何うでもよい。常盤病院は慥かに從事員や此の家族のためになつて居るのである。或は諸君の中には『それは東京地方の者の爲めにはなるであらうが、我々にはそんな醫院があらうがあるまいが、關係はないではないか』と思はれる人もあるかも知れぬが、之れまた間

違つた了簡である。例へば一家族の中に於て、一人の子供でも病に罹る時は、本人以外の父母兄弟の心配であり、又其子供の病氣が速かに平癒いたしたとすれば、又家族一同の喜びでなくてはならぬ。鐵道は一家族である。而して其の同族中の一部なる東京附近の同僚が、常盤病院の恩惠に浴して全快したとすれば矢張りそれが家族全體の喜びでなければならぬ。眞實家族的觀念を持つものは他人が其恩惠に浴したる事も自分が浴したと同樣に考へて喜ぶべきであらう。

要するに鐵道員上下の同情が相結合して、最下級のものゝ汗と、總裁の汗と落ち合ふ所が、即ち朝廷雨露の惠みを布く所以である。獨り總裁のみならず、事務所長でも、驛長でも、主任でも、同じく此精神を有せねばならぬ。よし二六時中部下と共に同一の事に從事して居なくとも、心は毎に部下の上にあつて

例へば洪水、暴風雨などの砌り、此が防禦のため、又は復舊工事のためなどに夜半と雖も苦心致して居る場合、上長たるものは、身は現場に居る能はずとも心は常に彼等と共にありて、矢張工夫や職工と同じだけの力と汗を流すだけの考へを持たねばならぬ。

(五) 幸福增進法

終りに臨み勞働の神聖なる事を一言する。鐵道の業事は皆勞働より成り立つて居る。然るに日本に於ては稍勞働するものを輕んずる慣習がある。西洋に於ても往古は此傾向があつたが、英國のカーライルの主張によりて、大に神聖視せらるゝに至つた。婦人子供までも勞働せねばならぬ。唯ブラ〳〵して居る者を善いと思ふやうでは、國家としても個人としても將來の幸福を增進すること

露光量違いの為重複撮影

は出來ない。又勞働と云ふ事も、只重いものを擔つて骨を折ると云ふのみではない、勞働を支配する者も矢張り一種の勞働である。心を勞する者と、體を勞する者を同一視する事は出來ないが、兎に角勞働である。今や勞働神聖主義が明かになつて、今まで輕蔑せられし時代より變じて來たのである。鐵道從事員も亦此の信念を堅うして、勞働者たることを以て決して自ら輕蔑するが如きことなく、勞働神聖主義を以て勇往邁進せねばならぬ。

修養の力 終

修養の力（奥付）

大正七年十一月十五日印刷
大正七年十一月二十五日發行

定價金一圓三拾錢

口述者 後藤新平
編者 菊地曉汀
東京市日本橋區蠣殼町三丁目一番地
發行者 越元次良
東京市神田區中猿樂町十七番地
印刷者 堀藤太郎

中外印刷株式會社印行

不許複製

發兌 東京市日本橋區人形町通水天宮側 東盛堂書店
電話浜二一四四番
郵振東京七五〇六番

露光量違いの為重複撮影

は出來ない。又勞働と云ふ事も、只重いものを擔つて骨を折ると云ふのみではない、勞働を支配する者も矢張り一種の勞働である。心を勞する者と、體を勞する者を同一視する事は出來ないが、兎に角勞働である。今や勞働神聖主義が明かになつて、今まで輕蔑せられし時代より變じて來たのである。鐵道從事員も亦此の信念を堅うして、勞働者たることを以て決して自ら輕蔑するが如きことなく、勞働神聖主義を以て勇往邁進せねばならぬ。

修養の力　終

修養の力（奥付）

大正七年十一月十五日印刷
大正七年十一月二十五日發行

定價金一圓三拾錢

口述者　後藤新平
編者　菊地曉汀
發行者　東京市日本橋區濱町三丁目一番地　越元次郎
印刷者　東京市神田區中猿楽町十七番地　堀藤太郎

中外印刷株式會社印行

不許複製

發兌　東京市日本橋區人形町通水天宮側　東盛堂書店　電話浜松二一四四番　振替東京七五〇六番

376
229

終